



2014年度 最終成果報告会
同志社ローム記念館大賞発表会
3月7日(土)

際に見せながらの質問タイムが設けられたが、ロボットやアプリ、冊子など、どのプロジェクトも目に見える成果を手それぞれアピールした。
報告会終了後ただちに賞の選考が行われ、キャンパス内の別会場にて同志社ローム記念館大賞発表会が開催された。「卒業式」をテーマに装飾が施された会場では、4つの賞が発表、賞状・トロフィーなどが授与され、交流会では互いに健闘を讃えあった。会の終盤ではスタジオZero企画による、卒業するメンバーと後輩メンバーが互いにメッセージを寄せたサプライズムービーの放映にメンバーが涙するシーンもあり、盛況のうちに幕を閉じた。

スタジオZeroを含め、全6チームが活動を展開した2014年度(第11期)のプロジェクト、1年間のしめくりとなる最終成果報告会が開催された。
劇場空間では、各チーム10分間のプレゼンテーションと質疑応答を行った。昨年度に引き続き、今年も、学生メンバー相互による「ベストプレゼンテーション賞」を選出することとなり、与えられた時間を有効に使うこと、メンバー以外の人たちに的確に活動や成果を伝えることなど、改めて考え直す機会となった。どのプロジェクトも工夫を凝らし、入念に準備されたことが伝わってくる力のこもったプレゼンテーションであった。
後半は、会場を2階オープンスペースに移して成果物を実



プロデューサー養成プロジェクト@木津川市



同志社ローム記念館プロジェクトの主旨のひとつでもある学生の目線で主体的に思考し、かつ、社会で応用化していくことを実践できていた。具体的な成果物として「プロデュースおたすけキット(アイデア編)」が制作できたことは高く評価できる。また、そこには木津川市の未来を担う中学生とともに学び、試行錯誤した過程が読み取れた。プレゼンテーションにも、これまでのプロデュースの経験が大きく反映されておりすばらしかった。

プロジェクトリーダー

今入 康友 (同志社大学大学院 理工学研究科)

プロジェクト責任者

二村 太郎 (同志社大学 グローバル地域文化学部助教)

参加団体

特定非営利活動法人
プロデュース・テクノロジー開発センター

メンバー数 14名



Pick up!

同志社ローム記念館大賞発表会 交流会第一部「ロムリーグ」

同志社ローム記念館大賞の選考を待つ間、プロジェクトメンバーを対象に、スタジオZeroの企画によるクイズイベントが行われた。

テレビでおなじみの人気クイズ番組をモチーフにしたイベントで、劇場空間の機材もフル活用。緊張の成果報告を終えたメンバーもほっと一息、珍回答も飛び出して会場は大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごせたようだ。



ポータブルラボ



若者の理科離れという社会的な課題をテーマとして取り組み、AR(拡張現実)技術を応用してバーチャルな理科実験ができる段階まで到達できた。また、ARを用いることによって小中学校の理科に対する興味をさらに引き出すことに成功した。成果発表では、実際のデモを効果的に使いながらわかりやすいプレゼンテーションを行った点もよかった。

プロジェクトリーダー

小羽田 諭孝 (同志社大学 生命医科学部)

プロジェクト責任者

大久保 雅史 (同志社大学 工学部教授)

メンバー数 10名

外部審査員特別賞

賞状・副賞(記念品)

macho 編集部



ターゲットを大学生に絞り、キャリア形成のきっかけづくりを目的とした点は、現代の女性の社会進出の流れ、ニーズにも合致している。年間4冊の発行にはたいへんな努力を要したと思われる。女子大生の心をつかむデザイン、レイアウトにも工夫がありよかった。今後の活動ではさらに高みを目指してほしい。

プロジェクトリーダー

清水 佑穂 (同志社女子大学 学芸学部)

プロジェクト責任者

二瓶 晃 (同志社女子大学 学芸学部助教)

メンバー数 22名

ベストプレゼンテーション賞

賞状・副賞(記念品)

プロデューサー養成プロジェクト@木津川市

学生メンバー相互評価により、与えられた時間を有効に活用し、最もすばらしいプレゼンテーションを行ったチームを選出する賞。スライドの見やすさや説明のわかりやすさ、時間配分など、総合的に評価し、5点満点で評価、今回は、発表時間も10分びつたりで、動画を使ったプレゼンテーションの工夫が光った「プロデューサー養成プロジェクト@木津川市」が獲得した。